

北九州市

1 北九州市における孤独・孤立対策について

■ これまでの取組、課題、あるべき姿

- 令和4年2月、市内のNPO法人等15団体の参加を得て、「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会」を設立した。
- 他方で、参加団体の連携協議会の活動や方向性に対する考えや期待感に差異がある中で、連携協議会活動を長期的に持続・継続させていくために、参加団体全員がPFの意義や目的を共有し、同じレベル感で理解を深めることが重要であると認識しているところ。
- そのため、連携協議会が自発的に自走していくべきとの課題意識のもと、行政が担っている事務局機能を参加団体への移行を検討する。

2 北九州市版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成

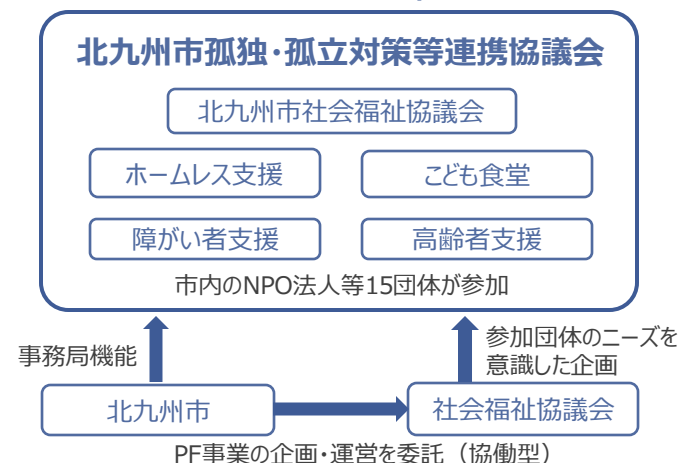
■ PFの設置・構成・役割

- 令和4年2月、市内のNPO法人等15団体の参加を得て、「北九州市孤独・孤立対策等連携協議会」を設置済み。
- ホームレス支援、子ども食堂、障害者支援、高齢者支援等の様々な分野で活動するNPO法人等が参加しており、支援の輪を広げるために今後も参加団体の増加を目指している。
- 孤独・孤立に関する課題に対して、行政・支援者同士が繋がり、連携を深め、支援活動の輪を広げるため、次の協議・検討を行う。
 - ✓ 行政・団体間の連携や支援方法についての意見交換
 - ✓ 包括的な支援体制構築に向けた連携・協力の在り方協議
 - ✓ 人材育成や研修等に関する協議 等

■ PF推進事業の直近の活動

- 連携協議会事業の企画・運営機能を社会福祉協議会へ委託。
 - ✓ 単純な委託ではなく共に考え、進める協働型の委託。
 - ✓ 社会福祉協議会の知見とネットワークを活用することにより、北九州市だけで対応した場合と比較して、成果が2倍、3倍と膨らむことを期待。
- 社会福祉協議会の企画・運営により、①支援団体の連携による試行的事業②人材確保・育成を目指す研修、③孤独・孤立に関する普及活動の3事業を実施。
 - ✓ 連携協議会参加団体間の連携強化、支援者の能力向上、参加団体の活動普及を図る。
 - ✓ 将来的な参加団体の拡大も念頭に置いている。

■ 官民連携プラットフォーム組織図イメージ



3 事務局機能の移行について

■ 問題意識

- 支援の輪を拡大していくため、今後PF参加団体の増加を目指しているが、より幅広いステークホルダーを迎え入れ、かつ彼らが継続的に参加することに意義を創出することが必要。
- 連携協議会活動の持続性・継続性も重要。参加団体の連携協議会の活動や方向性に対する考えや期待感に差異がある中で、連携協議会に参加することの意義を見出すことが出来なければ、途中で離脱する団体が生じることも懸念されるところ、よりの確に参加団体のニーズをつかみ、連携協議会の事業を展開していくことが必要。
- 事務局を担う北九州市も様々な業務を抱える中で、孤独・孤立対策を今後維持、発展させていくためには、行政からの押し付けではなく、PFが自発的・自走的に活動を行っていくことが必要。

■ 社会福祉協議会との協働体制の強化

- 社会福祉協議会は、これまでも孤独・孤立関連のテーマを含む福祉系業務の一部を受託しており、必要な知見を有する。また、PF参加団体とのコミュニケーションも日常的に行っており、参加団体のニーズ把握も容易。
- これらの特性を踏まえ、PF事業の企画・運営を社会福祉協議会への委託を試行的に実施。ただし、単純な委託ではなく、北九州市と社会福祉協議会が共に考え、進める協働型の委託とすることにより、北九州市だけで対応した場合と比較して、成果が2倍、3倍と膨らむことを期待。

■ 実施事業

- 参加団体間で何をしているのかが分かりにくいという問題意識から企画した支援現場見学バスツアーや、広く支援団体の活動を知ってもらうための動画作成等、連携協議会の活動をより有機的に結合させる取組を強力に推進した。
- また、協議会参加団体以外の方も含めて実施した「支援者向け能力向上研修会」は、将来的な参加団体構成員の支援者能力向上だけでなく、孤独・孤立対策等連携協議会の拡大も念頭に置いた取組となっている。

事業名称	事業内容	目的・期待される効果
支援団体間の連携による試行的事業	実際の支援現場を視察・体験するバスツアーを行い、各団体の取り組みを可視化することで、真の顔の見える関係づくり・信頼づくりを構築し、各団体間での相談者の適切なつなぎや参加団体同士の連携強化を図る。	参加団体の連携強化
人材確保・育成を目指す研修	孤独・孤立に係る相談支援に当たる人材向けの研修会を実施する。（協議会参加団体に限定しない）	支援者の能力向上、支援者同士の連携強化
孤独・孤立に関する普及活動	子どもから大人まで、悩みを抱える人が安心して支援団体等とつながることができる環境創出のため、孤独・孤立に関する普及啓発動画を作成する。	孤独・孤立の問題に関する啓発

3 事務局機能の移行について

■ 移行した成果

- 北九州市としては、今年度の活動を通じて、孤独・孤立支援の輪を広げてもらえたと感じている。
 - ✓ 参加団体のニーズを汲み取り、ともすれば協議会に参加するだけの関係になりがちな参加団体間の関係をバスツアー等を通じて相互に見える形にすることにより、要支援者に対し参加団体が協力して取り組める関係構築の第一歩とすることができた。
 - ✓ 支援者向け能力向上研修会においては、参加団体職員の相談能力向上はもとより、参加団体の以外の職員も参加できるようにすることで、参加団体以外の職員等の能力向上に寄与するとともに、将来的な連携協議会への参加のPRにもつながる活動となった。
- 社会福祉協議会においてもメリットがあったと感じている。
 - ✓ 委託の形で行政と一緒に取り組んでいるという建付けを構築することで、参加団体と話を進めやすいという部分があった。
 - ✓ 参加団体の中には、これまで深く関わりきれてこなかった団体もあり、今年度の事業を通じて、連携が深まったと感じている。
 - ✓ 事務局として連携協議会の構成団体と顔を合わせることも増えたので、今後も声をかけやすく、孤独・孤立支援をよりやりやすくなった。
 - ✓ 孤独・孤立支援業務は、社会福祉協議会としてもこれまでも実施してきたため、新たに委託を受けたことがそれ程大きな業務負担とは感じず、受け皿機能としても十分に果たすことができた。

■ 今後の方向性

- 今年度の成果を踏まえ、来年度以降も同様の協働型の委託を進めることで、連携協議会の活動の活性化やそれに伴う北九州市域の孤独・孤立支援事業の更なる充実を図っていく。
- 来年度以降については、社会福祉協議会だけでなく、連携協議会に参加するNPOの一部にも企画に参加してもらい、より幅広い知見や人脈を駆使した協働型委託とすることで、更なる質の向上を図っていくことを目指していく。
- 5月の孤独・孤立強化月間に合わせ、研修やバスツアー等を実施していく予定
- 連携協議会の参加団体数について、既加入団体を含め、5年後30団体を目指す。

社会福祉協議会が企画した活動の状況①【12/14開催 支援団体間の連携による試行的事業】



● 大型バスで各施設を移動



● NPO法人抱樸での視察



● 健康サロン見学の様子



● NPO法人フードバンク北九州ライフアゲインにて、食品の箱詰め作業を実施



● 各団体の活動内容についての説明



● 超高齢化社会を体験するボードゲームを実施

プログラム

①NPO法人抱樸「抱樸 館視察」

施設、支援内容の説明のほか、シェルター等の普段見ることのできない施設内まで見学した。

②大谷第二地区社会福祉協議会「健康サロン視察」

大谷第二地区社会福祉協議会が定期的に行っている健康サロンを視察。支える・支えられるの垣根を外し、誰もが気軽に参加できる地域の居場所を見学し、地域コーディネーターの役割について説明。

③NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン「ツキダテラス視察」

食料配布や地域食堂の事業を通して、地域の居場所として施設を開放しており、実際の活動の様子の見学と同施設に届けられた食料品の箱詰めを体験。

④北九州市子ども・若者応援センターYELL、北九州市障害者基幹相談支援センター、北九州市引きこもり地域支援センターすてっぷ、北九州市社会福祉協議会（4団体）「各施設視察」

福祉複合施設である「ウェルとばた」内に事業所を置く4団体を視察。スムーズな支援のつながりができるよう、実際の相談ブースの見学や相談員との顔合わせ等を行った。

⑤超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」

孤独・孤立対策を地域住民と専門性のある多職種が連携して解決していくことをゲームを通じて体験し、多様な主体で協力・連携することの重要性を理解した。

参加者数：23名（連携協議会参加団体より参加）

社会福祉協議会が企画した活動の状況②【2/5・2/6開催 人材確保・育成を目指す研修】



●オリエンテーション



●講師講演の様子



●グループワーク実施



●グループごとの意見発表

●参加団体

- ・北九州市孤独・孤立対策等連携協議会加盟団体
- ・北九州成年後見センター
- ・病院、介護職員
- ・就労支援団体 等

1 日目プログラム

①支援者側のメンタルヘルスについて(参加者20名)

支援活動の質の維持・向上に欠かすことのできない支援者自身の心の健康について、予防の観点やバイオサイコソーシャルモデルでの対処法等について学んだ。

②自分自身を見つめながら他社と楽しく関わる研修(参加者18名)

支援者がそれぞれの所属で持てる力を発揮するために大切にしているモノの考え方やブレない考え方の軸について、ゲームやグループワークを通して見つめなおした。

2 日目プログラム

③居場所ってなんだろう?(参加者33名)

孤独・孤立対策を考える上で最も重要なテーマの一つである「居場所」について、講師の体験談や国の孤独・孤立の実態調査の報告に基づき、孤独・孤立対策の必要性やこれからの居場所について考えた。

④疑似体験を通して知ろう！知的障害・発達障害のこと(参加者25名)

知的・発達障害を持つ方の特性について、当事者家族から疑似体験を通して普段の生活の中で感じていることや困っていることについて学んだ。できないことを知るのではなく、共に心が通い合える地域づくりについて考えるきっかけとなった。

⑤誰もが安心して暮らせる支え合いの街づくりを目指して(参加者16名)

地域の困りごとに気付く力を高め、地域の困りごとを話し合い、住民主体の助け合いの共助の仕組みについて、体験談も交えながら学んだ。

⑥孤独のない社会を創る！ビル一棟を心の拠り所となる居場所に再生(参加者21名)

福祉の分野外から起業家として孤独のない社会を創るために、「人とのゆるやかなつながりづくり」、「ソーシャルビジネス」の観点から講義。グループワークやワールドカフェの手法も取り入れながら、支援者同士の親睦も深まる最終講義となった。

4 試行的事業の実施状況

「孤独・孤立対策の重点計画」基本方針

- ①孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする
- ②状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる

支援団体間の連携による 試行的事業

基本方針④

【課題認識】

- ・持続的な孤独・孤立協議会活動のためには、参加団体の自発性を高める必要がある。
- ・行政、民間の連携強化のためには、相互理解を一層深める必要がある。

【事務局機能の移行に関する検証】

- 内容
孤独・孤立協議会の事務局機能の移行に関する可否や、移行する場合の範囲、方法等について検証する
- 実施時期
～R6.2月末

実施主体：北九州市

【支援現場見学会】

- 内容
協議会参加団体の支援現場を視察・体験し、参加団体同士が連携しやすい関係づくりにつなげる
- 実施時期
R5.12月14日

実施主体：市社協

【ケーススタディ】

- 内容
連携強化のために取組んできたケーススタディを、協議会参加団体の企画・運営により実施。
- 実施時期
R6.3月開催予定の協議会

実施主体：市社協

人材確保・育成を目指す 研修実施

基本方針①②③

【課題認識】

- ・支援団体によっては、普段、研修の機会が全くなく人材育成が進まないといった声が聞かれる。
- ・孤独・孤立対策は予防の観点が重要であり、相談者（相談を受ける人）になり得る層の育成が重要。

【支援者向け研修会】

- 内容
関係機関において孤独・孤立に係る相談支援等に当たる人材向けの研修会を実施。
- 実施時期
R6.2月5日・6日

実施主体：市社協

【包括的な支援体制構築に向けた支援者向け研修会】

- 内容
孤独・孤立の問題について見識の深い有識者を招き、支援関係者を対象とした研修会を実施。
- 実施時期
R6.1月19日

実施主体：北九州市

孤独・孤立に関する 普及活動

基本方針①③

【課題認識】

- ・R4年度いのちネット推進会議で実施した孤独孤立に関する講演会参加者アンケートで、「孤独・孤立の問題が身の回りであることを初めて知った」という声が多く聞かれた。

【いのちをつなぐネットワーク推進会議】

- 内容
いのちをつなぐネットワーク推進会議において、孤独・孤立の問題に対する理解促進のため、ワークショップを実施。
- 実施時期
R5.11月14日

実施主体：北九州市

【孤独・孤立問題に対する普及・啓発動画作成】

- 内容
支援を求める声を上げやすい社会に向けて、孤独・孤立の問題に関する啓発動画を作成する。
- 実施時期
～R6.2月末

実施主体：市社協

【孤独・孤立ノベルティ作成】

- 内容
孤独・孤立の問題に対する理解促進のため、市民等に配布するノベルティを作成。
- 実施時期
～R5.11月13日

実施主体：市社協

【北九州市版 お悩みハンドブック機能向上】

- 内容
「北九州市版 お悩みハンドブック」の、利用者数などのアクセス分析を行うことができるよう機能の改善を行う。
- 実施時期
～R6.2月末

実施主体：北九州市

4 試行的事業の実施状況

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先(予算配分)
北九州市孤独・孤立対策等連携協議会事務局機能の移行に関する検証	孤独・孤立協議会の事務局機能の移行に関する可否や、移行する場合の範囲、方法等について成果をまとめる。	協議会事務局機能の移行	—	NTTデータ経営研究所(500,000)
支援現場見学バスツアー	実際の支援現場を視察・体験するバスツアーを行い、各団体の取り組みを可視化することで、真の顔の見える関係づくり・信頼づくりを構築し、各団体間での相談者の適切なつなぎや参加団体同士の連携強化を図る。	参加団体の連携強化	2023.12.14	北九州市社会福祉協議会(1,158,120)
支援者向け能力向上研修会	孤独・孤立に係る相談支援に当たる人材向けの研修会を実施する。(協議会参加団体に限定しない)	支援者の能力向上	2024.2.5 2024.2.6	北九州市社会福祉協議会(844,340)
支援団体紹介動画作成等	子どもから大人まで、悩みを抱える人が安心して支援団体等とつながることができる環境創出のため、孤独・孤立に関する普及啓発動画を作成する。	参加団体の活動普及	—	北九州市社会福祉協議会(1,375,220)
孤独・孤立ノベルティ作成	孤独・孤立の問題を自分事として捉え、この問題に対する正しい理解の促進を図るため、市民等に配布するノベルティを作成する。	孤独・孤立対策の普及・啓発	—	株式会社成田屋(465,000)
人材確保・育成のためのケーススタディ	協議会参加団体の連携強化、支援の質の向上につなげるため、行政や団体が抱える困難ケースについてケーススタディを開催する。(2023.12は支援現場見学バスツアーとして実施。2024.3は検討中)	参加団体の連携強化、能力向上	2023.12、 2024.3	北九州市社会福祉協議会(0)
いのちをつなぐネットワーク推進会議	行政、民間企業・団体等の連携のもと、支援を必要としている市民が社会的に孤立することのないように、地域全体で見守り、必要な行政サービス等につなげていくことを目的とした「北九州市いのちをつなぐネットワーク推進会議」の実施。	孤独・孤立対策の普及・啓発	2023.11.14	株式会社コムディア(848,200)
包括的な支援体制の構築に向けた支援者向け研修会	複雑化・複合化した困難を抱える人を支援するため、属性を問わない包括的な支援体制の構築を行うための研修会の企画・運営。	包括的な支援体制整備	2024.1.19	株式会社アソウ・ヒューマニーセンター(908,600)
「北九州市版お悩みハンドブック」機能改善	「北九州市版 お悩みハンドブック」の、利用者数などのアクセス分析を行うことができるよう機能の改善を行う。	孤独・孤立対策の普及・啓発	—	株式会社グラフィアー(1,000,000)
			計	(7,099,480)

いのちをつなぐネットワーク推進会議



● 武内市長挨拶



● ワークショップの様子

プログラム

第一部

①市長挨拶

②感謝状贈呈式

■登録3年目 企業・団体感謝状贈呈

代表受領：NPO法人是空

■登録10年目 企業・団体感謝状贈呈（40企業・団体）

代表受領：株式会社ビッグベアーズフーズサービス

③事例発表（各10分程度）

■北九州市立大学 大学生

■買い物支援部会（合同会社GOYO）

④講演「認知症をもっと知ろう！」

講師：保健福祉局 認知症支援・介護予防センター
認知症地域支援推進員 中村 真理子 氏

第二部

⑤いのちをつなぐネットワーク推進会議 ワークショップ

[主なテーマ] 社会的孤立をはじめとする地域課題に対してできること

全体ファシリテーター：三菱UFJリサーチ&コンサルティング

副主任研究員 丸川 正吾 氏

参加者数：第一部84名、第二部75名

いのちをつなぐネットワーク推進会議構成団体：NPO法人、公益法人、民間事業者、金融機関、買い物支援団体 等

包括的な支援体制の構築に向けた支援者向け研修会



●研修会の様子

プログラム

①オリエンテーション

②包括的な支援体制の構築と重層的支援

講師：同志社大学 永田教授

③地域共生社会の実現に向けて～坂井市の取組から～

講師：坂井市 斉藤主査

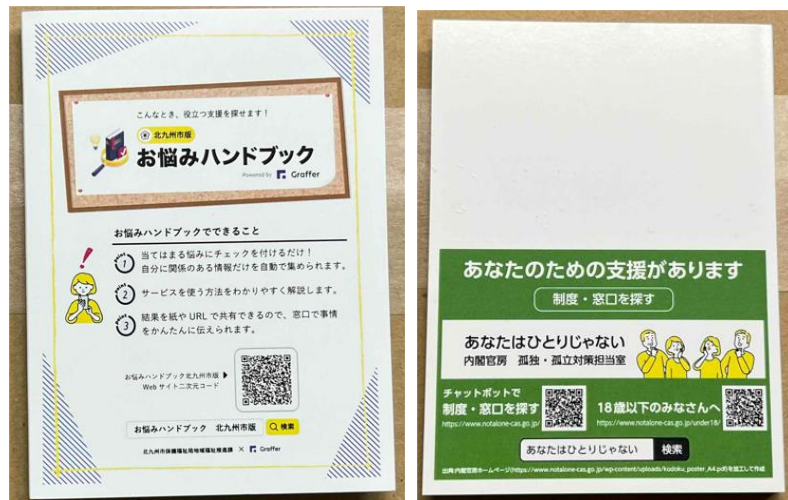
④グループワーク～複雑化・復号化したケースについてケーススタディ～

講師：同志社大学 永田教授

⑤質疑応答

- 参加者数：46名
- 参加団体
 - ・北九州市孤独・孤立対策等連携協議会加盟団体
 - ・北九州成年後見センター
 - ・就労支援団体
 - ・食支援団体
 - ・行政 等

孤独・孤立ノベルティ



いのちをつなぐネットワーク推進会議、連携協議会において関係団体へ配布したほか、食糧支援を行う団体を通じて市民へも配布

孤独・孤立に関する普及啓発動画



北九州市のウェブサイトや動画投稿サイト（YouTube）での配信を予定している